

田村麻呂

田村麻呂と蝦夷の合戦は、仁井田の倫勝寺のあたりで闘った
そうです。私一部しか聞いておりませんが、蝦夷の勢い
があんまり強くて、田村麻呂でももうはあ、負けそうになつて、
それで田村麻呂、「これ、どうしたら蝦夷に勝てるかな」って、
みんなでいろいろと案を練っていますと、田村麻呂の頭にひら
めいたのが、「うその城をここに作って攻めてくるのを防いだ

らどうかかってことで、その竹細工で城を作ったそうです。蠟
燭つけて明かりつけて、倫勝寺あたりのところへ何台も城の形
に作ったのを並べたそうです。そしてたら蝦夷のほうで攻めてき
たら、「やあー、あんなに立派な城、たいしたもんだな」って、
自分たちが攻めて行っても勝てる見込みないんじゃないか
なあ、っていうことで、蝦夷が能代から退散したっていうこと。
それが今の七夕だときいておりますけどね。

袴田タニ(長崎 79歳)

〈解説〉

八世紀の末から九世紀の初めにかけて、東北の蝦夷征討に功績を奉
げた坂上田村麻呂は、出羽の方には来ていない。にもかかわらず田村
麻呂の蝦夷征討の伝説が、この地方にも多いということは、そういう
英雄へのあこがれの表象であろう。能代にもこの種の田村麻呂伝説は
多い。東雲台地の北端にある杉沢熊野神社もそうであるし、柏子所や
大内田にも残っている。ここにあげた仁井田の話は、大内田あたりの
話が広がったものであろうし、能代の七夕の起源も田村麻呂に付会し
ている。こうした流布は、事実としてではなく、伝説として受容され
ていることを示している。